

# 群馬県立女子大学の基本方針

## 1 内部質保証に関する基本方針

### (1) 内部質保証の基本的な考え方

本学は、大学の目的の実現に向け、内部質保証に関する基本方針を定め、大学における教育研究活動や組織運営、施設設備等の状況について、自ら点検・評価し、改善することにより、恒常的・継続的に教育の質保証と学修の成果の水準向上を図る。

- ・ 教育に関する3方針（学位授与の方針、教育課程の編成・実施の方針、入学者受入れの方針）を起点とした内部質保証システムを構築し、教育、研究、社会貢献、その他大学の諸活動及び教員個人の活動において、PDCAサイクルを適切に機能させる。
- ・ 自己点検・評価を内部質保証の中心とし、現状確認、問題の洗い出しを経て、改善・改革を推進するとともに優れた取り組みを一層充実させる。
- ・ 全組織及び全教職員が大学の構成員としての自覚と責任を持って、内部質保証活動を実施する。また、自己点検・評価結果等の情報については、全教職員が共有する。
- ・ 大学の社会に対する説明責任を果たすため、自己点検・評価の結果を公表する。

### (2) 内部質保証の体制 \*別添「内部質保証体制図」参照

大学全体の内部質保証に責任を負う組織として、学長を責任者とし、幹部教職員で構成する「内部質保証推進委員会」（以下「委員会」という。）を置く。委員会は、本学を構成する学部・研究科等各部局及び学内組織（以下「部局及び学内組織」という。）における目標設定、実行、自己点検・評価及び改善（PDCA）のサイクルを適切に機能させることにより、実質的な教育の質及び水準の保証を推進する。

委員会直下に、附属図書館長を責任者とし、部局及び学内組織の代表者で構成する「自己点検・評価専門部会」（以下「専門部会」という。）を置く。専門部会は、大学全体の自己点検・評価活動を牽引・実施・総括する。併せて、各専門部会員は、所属する部局及び学内組織における自己点検・評価活動を主導する。

### (3) 内部質保証の取り組み

- ① 群馬県公立大学法人の中期目標・計画に対し、本学の中間報告書（4年終了時）及び最終業務実績報告書（6年終了時）を作成する。
- ② 毎年度、各部局及び学内組織の事業計画に対し、自己評価書を作成するとともに、大学全体の自己評価書を作成する。
- ③ 大学機関別認証評価受審に当たり、評価機関の指定様式で自己評価書を作成する。
- ④ その他、人材育成（FD・SD）、ステークホルダーとの意見交換、各種アンケート調査など、教学マネジメントの観点から改善・改革の各種取り組みを実施する。

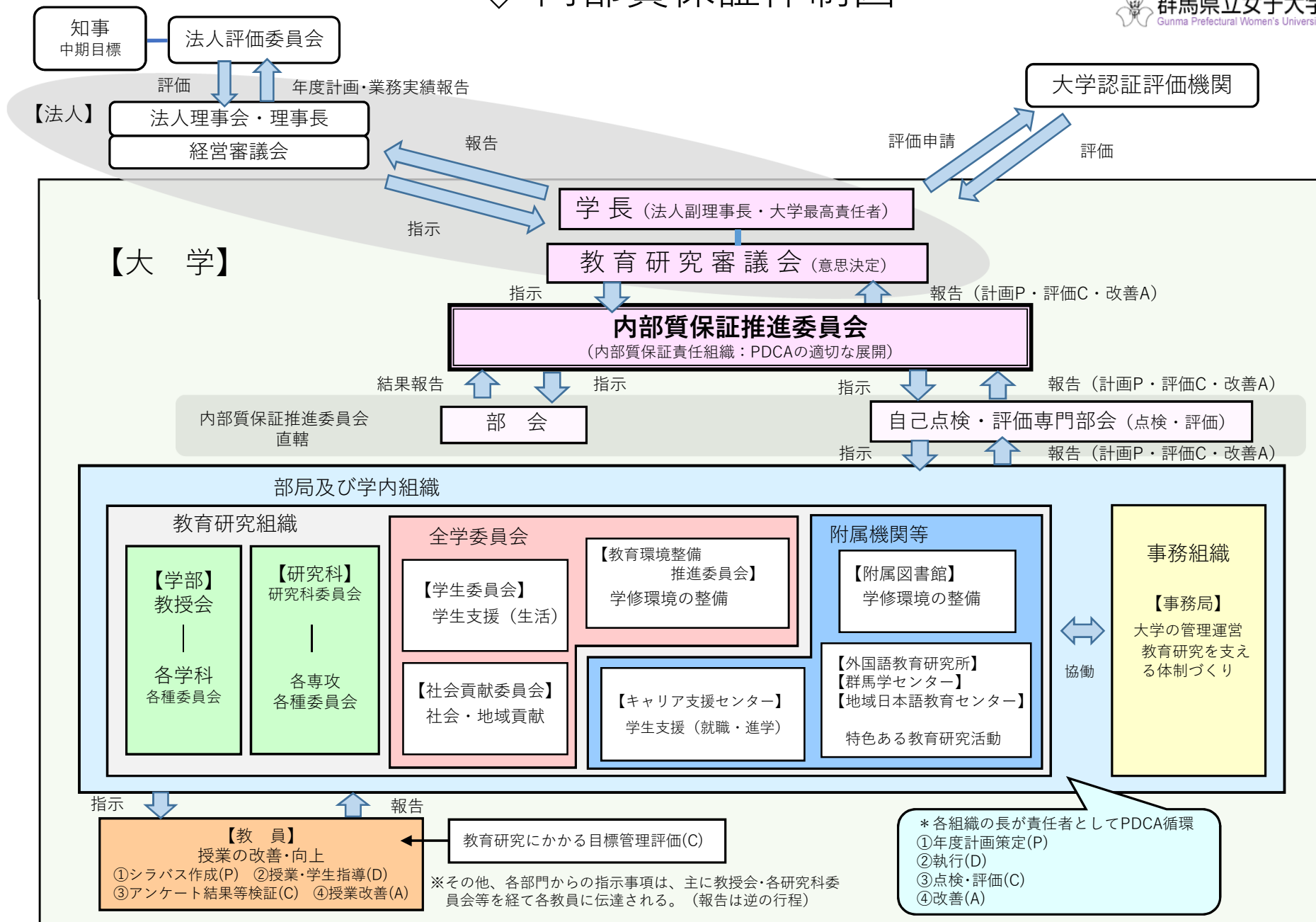
### (4) 第三者評価

- ① 認証評価機関による大学機関別認証評価（7年ごと）
- ② 群馬県公立大学法人評価委員会による評価（中間評価及び最終評価の年）

(5) 情報公開

自己点検・評価結果は、大学ポータルサイト等への掲載により、学内の教職員に周知する。また、自己点検・評価等の結果及び教育研究に関する各種情報について、大学ウェブサイト等を通じて公開することにより、社会に対する説明責任を果たす。

# ◇ 内部質保証体制図



## 2 教育に関する3方針

組織的かつ体系的な大学教育により、学生の学修成果を向上させ、学位授与に相応しい人材を育成し、社会へ送り出すという大学の使命を果たすため、本学の目的を踏まえ、一体的で整合性のある教育に関する3方針（学位授与の方針、教育課程の編成・実施の方針及び入学者受入れの方針）を策定し、公表する。

### (1) 3方針の基本的考え方及び策定方針

#### ① 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

学位授与に関する考え方について、大学の独自性や特色を踏まえてまとめた、大学教育における基本的な方針。学生の学修成果の目標となるもの。

各学部・学科等の目的（教育理念）に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを具体的に定める。学生が「何ができるようになるか」を明確にし、学生が身につけるべき資質や能力（知識・技能・態度など）を明確化する。

#### ② 教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

教育課程編成及び実施方法を定める基本的方針。

ディプロマ・ポリシーを踏まえた教育課程の編成、学修内容・学修過程・学修方法・評価方法を具体的に示す。組織的・体系的な教育課程編成により、主体的・能動的な学修を図る。

#### ③ 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

大学・各学部・学科等の目的（教育理念）、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づく教育内容等を踏まえた入学者受け入れの基本的方針。

入学志願者に対し、求める学生像や能力などの入学者選抜の方針をまとめたもの。

### (2) 3方針

#### 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

##### ◆ 大学全体

群馬県立女子大学では、広く知識を授け、深く専門の学芸を教授研究するとともに、地域社会における文化の進展に寄与し、更に国際化社会に対応し得る広い教養と豊かな情操を備えた人材を育成することを目的としている。

本学ではこの目的に基づいて、各学部・学科が示す学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた能力を身に付けた者に学士の学位を授与する。

#### ① 文学部

文学部では、人間社会の多様な文化について、人文科学的視点を軸として学修することにより、以下の能力を身につけた学生に「学士（文学）」の学位を授与する。

- 1) 人間が築き上げてきた知的遺産を受け継ぎ、幅広い教養と社会の変化に柔軟に対応できる思考力を身につけている。
- 2) 専門的学識を備えるとともに、的確な資料や情報を収集・分析し、その成果を他者と共有するために発信・表現できる。
- 3) 直面した課題について問題を発見する洞察力と、問題を分析し解決に導く柔軟な思考力や発想力を身につけている。

- 4) 幅広い教養と柔軟な思考力、専門的学識や技能、問題解決能力を身につけ、地域社会や国際社会に持続的に貢献できる。

#### ア 国文学科

国文学科では、所定の単位を修得し、以下の力を身につけた学生に、「学士（文学）」の学位を授与する。

- 1) 日本語・日本文学・中国文学・日本語教育についての知見を理解することができる。
- 2) 語学・文学の研究対象に即した的確な方法によって研究をすすめることができる。
- 3) 研究成果を論理的に表現し、地域や世界に向けて発信することができる。

#### イ 英米文化学科

英米文化学科では、所定の単位を修得し、以下の能力を身につけた学生に「学士（文学）」の学位を授与する。

- 1) 英語を通じて、複雑な情報を理解し、考えを論理的に表現し、適切に伝えることができる。
- 2) 英語学、英米文学及び英米文化に対する深い見識と広い視野を身につけ、文化的事象の性質を的確にとらえることができる。
- 3) 柔軟かつ緻密な思考力をもって、問題発見力を高め、社会の諸問題に対処していくことができる。

#### ウ 美学美術史学科

美学美術史学科では、所定の単位を修得し、卒業論文・卒業制作の形で研究業績をあげたことにより、以下の能力を身につけた学生に「学士（文学）」の学位を授与する。

- 1) 芸術分野や外国語などの幅広い教養を身につけており、論理的であるとともに、感性豊かで柔軟な思考力を発揮することができる。
- 2) 美学、美術史、実技、アートマネジメントの四つの領域について、基礎的な知識や技能を体系的に修得しており、芸術を通じて社会とつながることによって、社会に対する理解を深めることができる。
- 3) 四つの領域について専門性を高めており、実践などの学修経験によって自ら問題を発見し、課題を解決する力を発揮することができる。
- 4) 四つの領域のいずれかにおいて主体的に研究テーマに取り組んだことによって、多角的な視点による分析力や鋭い洞察力、豊かな構想力を身につけており、個性のかつ的確な表現力を発揮できるとともに、芸術文化について自ら探究していくことができる。

#### エ 文化情報学科

文化情報学科では、人文科学、社会科学および情報科学にまたがる諸分野の専門教育を通じて、以下の能力を身につけた学生に「学士（文学）」の学位を授与する。

- 1) 自らの問題関心に沿って学問的な問いを立て、論理的にその答えを導くことができる。
- 2) 文献資料を批判的な姿勢で読み解き、そこから得た知識や考え方を生かして、抽象的な概念を深く掘り下げて考えることができる。
- 3) 社会調査や資料分析の方法を活用して、人間社会におけるさまざまな問題について

て理解し、その解決方法を探ることができる。

- 4) 情報およびメディアのしくみを理解し、情報社会のあり方を自らの問題としてとらえて行動することができ、また情報を発信する方法を身につけている。

#### オ 総合教養学科（在籍する学生が不在となるまで）

総合教養学科では、人文科学、社会科学および情報科学にまたがる諸分野の専門教育を通して、以下の能力を身につけた学生に「学士（文学）」の学位を授与する。

- 1) 自らの問題関心に沿って学問的な問いを立て、さまざまな学問領域の方法論を用いて論理的にその答えを導くことができる。
- 2) 文献資料を批判的な姿勢で読み解き、そこから得た知識や考え方を生かして、抽象的な概念を深く掘り下げて考えることができる。
- 3) フィールド調査やデータ分析など、社会調査の方法を活用して、人間社会におけるさまざまな問題について理解し、その解決方法を探ることができる。
- 4) 情報メディアのしくみを理解し、情報社会のあり方を自らの問題としてとらえて行動することができ、また情報を発信する方法を身につけている。

#### ② 国際コミュニケーション学部

国際コミュニケーション学部では、実践的な英語教育と幅広い人文・社会科学分野の専門教育を通して、以下の能力を身につけた学生に「学士（国際コミュニケーション学）」の学位を授与する。

- 1) 高度な英語力を身につけ、英語での情報を的確に理解し、異文化間でも意思疎通を図ることができる。
- 2) 国際社会に目を向け、国家・社会・企業・団体・個人などの間の多様な関係を理解し、広い視野でものごとをとらえることができる。
- 3) 言語・経済・経営・政治などの分野における専門知識を修得し、その過程を通して論理的思考力・表現力および問題解決能力を身につけている。
- 4) 自分に必要な学びを発見し、自ら計画・実行することにより、生涯にわたって自律的・主体的に学び続ける態度を身につけ、国際社会で持続的に活躍しうる力を持っている。

#### ◆ 大学院全体

群馬県立女子大学大学院は、地域社会や国際社会を多様に支える高度で知的な素養のある人材の養成を図るとともに、研究能力又は高度の専門性が求められる職業等を担うための卓越した能力を培うことを教育研究上の目的としている。

本学大学院では、この目的に基づいて、各研究科・専攻が示す学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた能力を身に付けた者に学位を授与する。

#### ① 文学研究科

定められた期間在学し、所定の単位数を修得するとともに、日本文学、英米文化、芸術学、複合文化のいずれかにおいて個別の研究指導の下に作成した修士論文・修了制作又は課題研究の審査及び最終試験に合格した者で、広い視野と深い学識を備えるとともに、自立して研究あるいは創作活動を行える能力を備え、専門的能力を要する職業等により地域社会や国際社会の発展に寄与しうる者に「修士（文学）」の学位を授与する。

### ア 日本文学専攻

日本文学専攻では、所定の単位を修得し、以下の力を身につけた者に「修士（文学）」の学位を授与する。

- 1) 日本語、日本文学、漢文学及び日本語教育に関する知識を総合的に修得し、個別のテーマに関して深い研究を行うことができる。
- 2) 研究者、日本語教員等として活躍できる高度で幅広い学識及び教養を身につけている。

### イ 英米文化専攻

英米文化専攻では、所定の単位を修得し、以下の力を身につけた者に「修士（文学）」の学位を授与する。

- 1) 英語学、英米文学、英米文化に関する広く共有されている知識と最新の専門的知識を身につけている。
- 2) 専門分野の研究を通じて、情報・データを収集し、解析する能力、論理的な思考力ならびに考えを的確に表現する能力を身につけている。
- 3) 教育・研究職をはじめ、高度な専門性が求められる分野での職業人として活躍できる能力を身につけている。

### ウ 芸術学専攻

芸術学専攻では、所定の単位を修得し、以下の力を身につけた者に「修士（文学）」の学位を授与する。

- 1) 美学、美術史（日本・西洋）、アートマネジメント、美術実技の四つの領域のいずれかを深く専門的に追究し、芸術及び文化の本質に対する理解力を身につけている。
- 2) 自立して研究あるいは創作活動を行える能力を備え、地域に根ざすとともに国際的な視野を持って研究の成果を社会に還元する応用力を身につけている。

### エ 複合文化専攻

複合文化専攻では、所定の単位を修得し、以下の力を身につけた者に「修士（文学）」の学位を授与する。

- 1) 人間と社会、人間と文化及び人間と伝達のいずれかの分野を深く学び、専門的な知識を身につけている。
- 2) 専門分野に関連する領域の知識を獲得し、さらにその研究の成果を社会に還元する力を身につけている。

## ② 国際コミュニケーション研究科

国際コミュニケーション研究科では、定められた期間在学して、所定の単位数を修得するとともに、個別研究指導の下に執筆した修士論文または課題研究の審査および最終試験に合格した者で以下の能力を身につけた学生に、「修士（国際コミュニケーション学）」の学位を授与する。

- 1) 英語という言語を多面的に理解し、異文化間の高度なコミュニケーションを図るために必要とされる高い専門知識ならびに学究的な思考方法を身につけている。
- 2) 国際社会における国家・社会・企業・団体・個人などの関係を理解し、リーダーとして行動するために必要とされる学際的な専門知識ならびに学究的な思考方法を身につけている。
- 3) 以上のような専門的知識に裏打ちされた問題発見・解決能力を持ち、職業人として

グローバル社会で活躍できる能力を身につけている。

## 教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

### ◆ 大学全体

群馬県立女子大学では、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に示した能力を修得させるため、体系的な教育課程を編成する。学生が主体的・自律的に学ぶことができるように、授業は講義・演習・実習・実技の様々な方法・形態等により実施し、成績評価は客観的基準に基づいて行う。

この方針に基づき、各学部・学科・課程は教育課程編成・実施の方針を定める。

### ① 文学部

文学部では、人間社会の幅広い文化を学修し、柔軟な思考力を持った問題解決能力を有する人材を育成するため、以下の方針に従って教育課程を編成し、実施する。

- 1) 人間が築き上げてきた多様な学問について、幅広く基礎的な知識を身につけ、柔軟で開かれた教養を育む。
- 2) 各分野における専門的な知識・技能や研究の方法を身につけ、その成果を説得力をもって表現する力を養う。
- 3) 豊かな感性と開かれた知性に基づく洞察力により、問題を発見し、的確な分析と柔軟な発想で課題を解決する力を養う。
- 4) 幅広い教養・専門的学識に基づいて、自他の人間性を尊重し、地域社会や国際社会に貢献する力を養う。

#### ア 国文学科

国文学科では、日本語・日本文学・中国文学・日本語教育の専門的な知見を養い、地域社会や国際社会に貢献できる人材を育成するため、以下の方針に従って教育課程を編成し、実施する。

- 1) 初年次教育においては、国文学の学修に必要な基礎的な知識を身につけるとともに、人間社会の多様な文化について学び、専門教育の基盤となる力を養う。
- 2) 二年次以降の専門教育においては、専門分野に関する幅広い知識や語学・文学研究の基本的な方法を身につけ、それを実践的に運用する力を養う。
- 3) 四年次には卒業論文の執筆を通して、専門分野における研究課題を自ら発見し、問題解決に向けて探究するとともに、その成果を論理的に表現できる力を養う。
- 4) カリキュラム全体を通し、専門的な知見とその運用能力や洞察力・表現力によって、社会の様々な領域で活躍できる力を養う。

#### イ 英米文化学科

英米文化学科では、英語の運用上の技能を高めるとともに、英語学、英米文学及び英米文化の専門的学習を通じて、英米の文化に対する深い見識及び広い視野並びに柔軟かつ緻密な思考力を培うため、以下の方針に従って科目を開設している。

- 1) 初年次より、外国人教員と日本人教員のバランスをとった習熟度別・少人数制クラス編成によるコミュニケーション科目により、英語の四技能（聞く・話す・読む・書く）の運用能力を高めるとともに、専門への導入として講義・講読科目により基礎的な知識を培う。
- 2) 二年次からは、引きつづき英語運用能力の向上を目指すとともに、英語学、英米



文学及び英米文化の三分野における講義・講読科目群の学修により、さらに専門的な知識と人文学的思考の方法を身につける。

- 3) 三年次から、少人数制の演習により、問題設定、資料・情報の収集・分析、論理的思考と表現の能力を高め、その成果を、四年次の卒業論文指導を経て、学修の集大成としての卒業論文に結実させる。
- 4) カリキュラム全体を通し、言語、文学、文化の中に息づく人間的営為を身をもって体験し、そこで獲得した知と見識をもって、地域社会や国際社会に貢献する力を涵養する。

#### ウ 美学美術史学科

美学美術史学科は(1) 理論的部門としての美学、(2) 歴史的部門としての美術史、(3) 実践的部門としての実技の三つの柱と、(4) それらを横断して結合するアートマネジメントの四つの領域から構成される。

- 1) 初年次教育として、豊かな外国語教育と、「芸術プログラム」を核にした多彩な教養教育を展開し、専門教育では、四つの領域の基礎科目を通じて、基礎的な知識を培う。
- 2) 専門教育では、二年次から始まる特講等によって専門知識を深め、また技能を高めて行く。三年次からゼミに所属し、演習等によって自分の研究領域を明確にして行き、少人数指導を通じて研究対象を深く考える能力を養う。また、課題レポートの作成によって卒業論文・卒業制作の準備をする。
- 3) 四年次には、個人・少人数指導により、四年間の学修・研究の総決算として卒業論文・卒業制作を完成させる。
- 4) 全学年の教育を通じて、社会のなかの芸術のあり方について深い理解を得るだけでなく、実際に芸術を通じての地域貢献を実践し、人格的な成長を成し遂げる。

#### エ 文化情報学科

文化情報学科では、「社会・文化」「メディア・情報」の2つのグループからなるプログラムによって課程を編成し、専門的知識を総合的に修得するため、以下の方針に従って科目を構成する。

- 1) 初年次教育においては、学科独自の入門科目を通じて、全ての学問の基礎となる文献を読み解く力、問題設定と解決を実践する力を培う。
- 2) 二年次からは、学科の専門基礎科目や展開科目を通じて、現代社会や文化への理解を深めるために社会調査データや資料の分析に基づいて諸問題を検証する技能と、情報およびメディアに関する技術や思想の学びを通じて情報化社会に対応できる高度なリテラシーを獲得する。
- 3) 四年次には、文化情報学科のカリキュラムを通じて修得した知識や技能の集大成として「卒業研究」を完成させる。
- 4) カリキュラム全体を通して培われた専門的知識を応用し、獲得した知見を社会に還元しながら多様な場で活躍できる人材を育成する。

#### オ 総合教養学科（在籍する学生が不在となるまで）

総合教養学科では、「表現・思想」「環境・社会」「メディア・情報」の3つの系からなるプログラムによって課程を編成し、専門的知識を総合的に修得するため、以下の方針に従って科目を構成する。

- 1) 学科独自の基礎科目を通じて、異なる分野を横断して考察する力、全ての学問の基礎となる文献を読み解く力を培う。

- 2) 自律的なフィールドワークの実践によって、学生一人一人が主体的に考え、自ら設定した課題を達成する力を修得する。
- 3) 専門科目、演習を通じて、培った知識を応用する力を磨き、集大成として「卒業研究・卒業制作」を完成させる。
- 4) 上記を通じて修得された知見、経験をもとに、様々な社会や地域に貢献できる人材を育成する。

## ② 国際コミュニケーション学部

国際コミュニケーション学部では、実践的な英語力、高いコミュニケーション能力並びに人文・社会科学分野の専門的知識を備えた、グローバル社会で活躍できる女性リーダーを育成するため、以下の方針に従って教育課程を編成し、実施する。

- 1) 初年次より、高度な英語力と、英語での情報を的確に理解し、異文化間でも意思疎通を図ることができる力を身につける。
- 2) 初年次より、国際社会に目を向け、国家・社会・企業・団体・個人などの間の多様な関係を理解することにより、問題発見・解決力と論理的思考力を身につける。
- 3) 専門教育では、言語、コミュニケーション、経済、経営、政治などから専門分野を選択し、専門的知識を習得するとともに、隣接領域についても広く学ぶことにより、広い視野と問題発見力・解決力、論理的思考力および表現力を身につける。
- 4) カリキュラム全体を通して、必要な学びを自ら発見し、計画・実行することにより、生涯にわたって自律的・主体的に学び続ける態度とグローバル社会で活躍しうる力を身につける。

## ◆ 大学院全体

群馬県立女子大学大学院では、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に示した能力を修得させるため、体系的な教育課程を編成する。学生が主体的・自律的に学ぶことができるように、授業は講義・演習・実習・実技の様々な方法・形態等により実施し、成績評価は客観的基準に基づいて行う。

この方針に基づき、各研究科・専攻は教育課程編成・実施の方針を定める。

## ① 文学研究科

文学研究科は、以下の方針に基づいて教育課程を編成し、実施する。

- 1) 日本文学、英米文化、芸術学、複合文化の四専攻により、各専門分野の研究に必要な知識と能力を養うとともに、専攻を超えた広範な視野と柔軟な思考力を培う。
- 2) 研究・教育上の目的に沿って設けられた各授業科目及び修士論文・修了制作又は課題研究の作成指導を通じて、広い視野に立つ深い学識と、自立して研究あるいは創作活動を行える能力ならびに高度な専門性を培い、地域社会や国際社会の発展に寄与しうる人材を育成する。

### ア 日本文学専攻

日本語、日本文学、漢文学及び日本語教育の各分野を総合的に学び、広い視野に立ちながら個別のテーマに関する高度な研究能力を獲得し、専門的立場から広く社会に貢献できる人材を育成するため、以下の方針にしたがって教育課程を編成し、実施する。

- 1) 一年次には、「日本語日本文学研究法」「研究」「演習」「特講」において各分野の

研究に必要な知識と能力を養う。

- 2) 二年次には、「研究」「演習」「特講」において各分野の研究に必要な知識と能力を養うとともに、「修士論文」において修士論文の作成に取り組む。

#### イ 英米文化専攻

専攻が開講する授業科目、ならびに、修士論文あるいは課題研究を通して、英語学、英米文学、英米文化における深い学識を得るとともに、研究遂行能力及び問題解決能力を高め、もって、専門的立場から広く社会に貢献できる人材を育成するため、以下の方針にしたがって教育課程を編成し、実施する。

- 1) 一年次では、英語学、英米文学及び英米文化の三分野における研究・演習科目により、高度な専門知識や学術的理論ならびに研究方法を学ぶとともに、個別研究指導を通して、研究計画の改善及び情報・データの収集と分析を進め、修士論文あるいは課題研究の作成に向け、研究を深める。
- 2) 二年次では、引きつづき各分野の研究・演習科目により、学識及び論理的思考を深め、個別研究指導を通して、先行研究の批判的検討を行いながら論文構成を練り上げ、学修の集大成としての修士論文あるいは課題研究に結実させる。

#### ウ 芸術学専攻

美学、美術史（日本・西洋）、アートマネジメント、美術実技の四つの領域のいずれかを学び、地域に根ざすとともに国際的な視野を持ち、芸術及び文化の本質を理解する人材を育成するため、以下の方針にしたがって教育課程を編成し、実施する。

- 1) 一年次では、特殊研究、演習、実技科目を通じて、芸術の体系的及び歴史的理解を深め、自立して研究を行える能力を培い、芸術を通じての地域貢献の実践的研究や創作活動のレベルを上げる。
- 2) 二年次では、研究あるいは創作活動を進め、個別研究指導の下、学修の集大成である課題研究、修士論文・修了制作を完成させる。

#### エ 複合文化専攻

人間と社会、人間と文化及び人間と伝達の領域のいずれかにおける深い専門的知識を得ることで研究能力を獲得し、人間の営みを深く理解する人材を育成するため、以下の方針にしたがって教育課程を編成し、実施する。

- 1) 一年次では、本専攻における学びの基礎となる「基礎研究」等の科目の履修やフィールド調査等を通じて、専門的な知識や研究の方法を修得する。
- 2) 二年次では、上記の学修を通じて得られた知識を練り上げ、専門性と独自性を備えた研究を完成させる。

### ② 国際コミュニケーション研究科

国際コミュニケーション研究科では、グローバル社会で活躍するために必要な専門知識と英語コミュニケーション能力を持ち、様々な課題に対する柔軟な思考力と深い洞察力を備えた人材を養成するため、以下の方針にしたがって教育課程を編成し、実施する。

- 1) 英語という言語を多面的に理解し、異文化間の高度なコミュニケーションを図るうえで必要とされる高い専門知識ならびに学術的な思考方法を身につけるために、「英語コミュニケーション」、「英語学」、「応用言語学」の3分野の専門科目を置く。
- 2) 国際社会における国家・社会・企業・団体・個人などの関係を理解し、リーダーとして行動するうえで必要とされる学際的な専門知識ならびに学術的な思考方法を身に

つけるために、「国際経済」、「国際経営」、「国際政治」、「行動科学」の4分野の専門科目を置く。

- 3) 専門的知識に裏打ちされた問題発見能力・解決能力ならびに学術的思考方法を身につけるために、修士論文あるいは課題研究の作成にむけて、1年次から指導教員による個別研究指導を行う。

## 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

### ◆ 大学全体

群馬県立女子大学は、本学が掲げる教育理念、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえて、人文社会科学の分野に高い関心を持ち、幅広く豊かな教養と専門的な知識や技術を活かして、地域と国際社会に貢献しようとする目的意識・意欲を持つ者を多様な選抜試験を通じて受け入れる。

### ① 文学部

文学部は、人間が築き上げてきたことばや文化、芸術に対する幅広い知識と深い洞察力を身につけ、柔軟な発想力と応用力、問題解決能力を持った有能な人材を育成することを教育目標としています。

そのため、文学部は次のような学生を求めています。

- 1) ことばや文化、芸術に対する強い関心や好奇心を持ち、感受性豊かな人
- 2) 自分で問題を発見し、情熱を持ってそれに取り組む探究心と持続力とを持つ人
- 3) 文章を理解する能力、論理的に物事を考えていく能力、考察した結果を表現する能力を持つ人

その上で、各学科はそれぞれ以下の項目のいずれかに該当する人を求めています。

#### ア 国文学科

- ・日本の古典文学や近代文学、または漢文学に強い関心を持つ人
- ・日本語に強い関心を持つ人
- ・日本語教育を通して国際交流に貢献したいと考えている人

#### イ 英米文化学科

- ・英語の学習に積極的で、その力をさらに伸ばしたい人
- ・英語学、英米文学、英米文化のいずれかの分野に強い関心を持つ人
- ・英語教育のほか、英語力をいかして広く社会貢献をしたいと考えている人

#### ウ 美学美術史学科

- ・芸術とその歴史に強い関心を持つ人
- ・広く芸術を鑑賞し、創作・実践する意欲を持つ人
- ・芸術文化の国際的交流や地域貢献などに強い関心を持つ人

#### エ 文化情報学科

- ・現代の社会や文化について深く考える方法を学びたい人
- ・情報やメディアの役割を理解し、情報発信の技法を身につけたい人
- ・文科系、理数系を問わず、問題解決のための複合的な視点を手に入れたい人

オ 総合教養学科（在籍する学生が不在となるまで）

- ・ 書物を読み解くことによって、多彩な文化に触れたい人
- ・ 現場での調査を通じて生きた知を探求し、広く社会に貢献したい人
- ・ 文科系、理数系を問わず、様々な領域の考え方を身につけたい人

② 国際コミュニケーション学部

国際コミュニケーション学部は、実践的な英語力、高いコミュニケーション能力、そして幅広い人文・社会科学の知識を活かして、グローバル社会で活躍できる女性リーダーの育成を目指しています。そのため、本学部では多様な選抜制度を設け、次のような個性豊かでチャレンジ精神のある学生を求めています。

- 1) 高等学校で身につけるべき英語の基礎知識を持ち、英語の4技能向上に取り組み、積極的に英語でコミュニケーションを取ろうとする態度を持つ人
- 2) グローバル社会や異文化コミュニケーションに関心を持ち、多様な領域への知的好奇心と探究心を持った学習意欲の高い人
- 3) 広い視野と多角的な視点から物事をとらえ、自らの考えをまとめて、それを的確に表現することができる人
- 4) 目標を定め、その達成に向けて主体的に計画・実行できる人、またその過程において多様な人々と協働できる人

◆ 大学院全体

群馬県立女子大学大学院は、本学大学院の目的、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえて、専攻する研究分野についての強い関心と基礎的能力を有し、論理的思考力と創造性を持ち、文化の進展に寄与しようとする意欲を備えている者を、複数の選抜試験を通じて受け入れる。

① 文学研究科

文学研究科は、伝統的な学問研究の基本的な枠組みを維持して専門分野の研究に必要な素養を身につけた人材の育成を図るとともに、高度の学業及び研究を積んだ研究者並びに高度の専門性に裏付けられ、様々な職域及び地域の発展に寄与し得る人材を育成することを目的としています。

そのため、本研究科は、人間と社会への深い関心と知的好奇心に富み、専門性の高い研究に取り組むために必要な基礎的知識と学力を有する人を求めています。

○求める学生像

ア 日本文学専攻

- 1) 日本語・日本文学に強い関心を持ち、現代の国際化社会の中でその意味をより深く探究したい人
- 2) 日本語学、日本文学、漢文学、日本語教育学のいずれかの分野についての基礎的な知識を持ち、さらにそれを深めたい人
- 3) 本専攻で培われた専門的能力をいかし、学校教育、社会人教育、外国人への日本語教育などの分野で社会貢献を目指す人

### イ 英米文化専攻

- 1) 英語を通して見えてくる世界に強い関心と問題意識を持つ人
- 2) 英語の文献を読みこなす基本的な語学力と、英語学、英米文学、英米文化のいずれかの分野についての基礎的な知識を備え、さらにそれらを深めたい人
- 3) 本専攻で養った専門的能力を用い、英語教育の現場や英語力をいかした分野での社会貢献を目指す人

### ウ 芸術学専攻

- 1) 芸術全般に広く興味を持つ人
- 2) 美学、日本美術史、西洋美術史、アートマネジメント、美術実技のいずれかの分野に強い関心を抱き、美学と美術史、アートマネジメントについてはその基礎知識を持ち、美術実技においては独自の発想や豊かな感性を有し、素描力と色彩表現力を備えた人
- 3) 本専攻で追究した専門性をいかすことで、アートの現場の他、広く社会に貢献したいと考えている人

### エ 複合文化専攻

- 1) 広く文化一般に対して飽くなき好奇心を持つ人
- 2) 情報、メディア、社会、文化のいずれかの領域に対し強い関心を抱き、その専門対象についての基礎的知識を有する人
- 3) 専門的知識を深め、その成果を世界に向かって発信し、専門性を活かして社会で活躍したいと考えている人

## ② 国際コミュニケーション研究科

本研究科では、グローバル社会で活躍するために必要な専門知識と英語コミュニケーション能力を持つリーダーを養成することを目指しています。そのために、次のような学生を求めています。

- 1) 言語としての英語に対する学問的アプローチや国際社会の諸問題に関する学際的研究に強い関心を持っている人
- 2) 国際社会における国家・社会・企業・団体・個人などの関係を理解し、リーダーとして行動する強い意欲を持っている人
- 3) グローバル社会における問題を自ら発見し、論理的思考により、その解決に自律的に取り組んで行ける人

### 3 求める教員像及び教員組織の編成方針

#### (1) 大学の求める教員像

本学の目的を十分理解した上で、教員としての職務と責任を自覚し、以下のことを実践する教員であること。

- ① 大学における教育を担当するにふさわしい教育上の能力があり、その向上に努め、アドミッション・ポリシー、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーの3つの教育方針の実現に貢献する者。
- ② 優れた研究業績をあげ、その研究成果を学生に教授し、また広く一般にも発信することによって、積極的に社会に貢献する者。
- ③ 地域社会との協働プロジェクトや社会貢献活動に積極的な役割を果たす熱意があり、その関連業務を遂行できる者。
- ④ 委員会活動や広報活動などの大学並びに所属組織の業務に積極的に取り組み、本学の目的を達成するために尽力する者。
- ⑤ 大学・学部・研究科等の運営において自らの役割を自覚し、他の教職員と協働しながら、それらの発展に寄与するとともに、高い倫理性と清廉性を持って職務を遂行できる者。

#### (2) 教員組織の編成方針

以下の編成方針に従って教員組織を整えることで、教育・研究・社会貢献及び管理運営の諸活動の維持と向上を目指す。

- ① 「大学設置基準」等関連法令の求める基準を充たすとともに、本学の目的、各学部・研究科のディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー等を実現するために、教育研究上必要な教員を配置する。
- ② 年齢・職位・性別に大きな偏りが生じないように編成する。
- ③ 教育・研究・社会貢献・管理運営の各種活動において、教員間で適切な役割分担や協働が行われるように編成する。
- ④ 教員の募集・採用・昇任等は、求める教員像や本学の関係諸規程等に基づいて、透明性・適切性を担保しつつ、公正・公平に行う。
- ⑤ 組織的・多面的なFD活動を行って、絶えず教員の資質向上を図る。

## 4 学生支援に関する基本方針

本学は、大学の目的の実現に向けて、学生一人ひとりが学修に専念でき、充実した学生生活を送り、社会で活躍できるよう、教職協働で下記の取り組みを行う。

### (1) 自立した学びの促進

学生個々に対応したきめ細かな修学支援を行うことで、学生の自主的・主体的な学びを促すとともに、安定した学修環境を整備する。

また、奨学金や授業料減免などの支援を充実させることで、学生が経済的に不安なく学業に専念できるよう努める。

### (2) 豊かな学生生活の実現

きめ細かな相談体制を整えるとともに、課外活動等の支援を積極的に行うことで、学生が心身ともに健全で豊かな学生生活を送れるよう支援する。

### (3) キャリア形成のための支援

進路に関する各種講座・ガイダンス等を実施するとともに、キャリア相談体制を充実させることで、学生個々の自己実現に向けたキャリア形成を支援する。

### (4) 多様な学生への支援

学生の人権を保障するとともに、ハラスメントの防止などに努めることで、障がいや国籍などに関わらず、多様な学生が学内で安心して学生生活を送れるよう支援する。



## 5 教育研究等環境整備に関する基本方針

本学が掲げる目的を実現するために、教育研究等環境整備に関する基本方針を以下のとおり定める。

### (1) 教育環境の整備

安全かつ教育に適した環境を維持・整備するため、施設の充実を図るとともに、管理等を適切に行う。

### (2) 図書館・学術資料の整備

学修及び教育研究活動を支援するため、現存する資料の管理・保管や、データベースなどを含む学術資料を充実させるとともに、図書館の施設整備に努める。

### (3) 情報・通信環境の整備

学修及び教育研究活動を支援するため、時代に即した情報・通信環境の整備を推進するとともに、情報セキュリティポリシーに基づき、情報の保全及び管理を行う。

### (4) 研究環境の整備

本学の研究活動を促進するため、研究施設の維持・整備を行い、また、科学研究費助成金等の競争的研究資金の獲得支援体制の強化を図る。

### (5) 法令の遵守

研究活動の適正な運営・管理を実現するため、「研究活動上の不正行為の防止に関する基本方針」に基づき、研究倫理の遵守を徹底する。また、「ハラスメント等人権侵害防止等のための指針」に基づき、人権侵害等の防止に組織的に取り組む。

## 6 社会連携・社会貢献に関する基本方針

本学は、大学の目的の実現に向けて、教育・研究の成果を社会に還元し、地域社会や国際社会における文化の進展への貢献を行うとともに、各種資源の開放に努めることで、社会連携及び社会貢献を推進する。

(1) 研究成果の公表・還元

教育研究を推進するとともに、その成果を地域社会・国際社会に公表・還元する。

(2) 知的資源の還元

公開講座、公開授業、出前講座などを通じ、大学の持つ知的資源を地域社会に公開・還元する。

(3) 地域社会の課題解決

地方自治体やNPO法人、他大学等と連携・協働し、地域社会が抱える課題の解決に向けて積極的に取り組む。

(4) 人材育成

ボランティア活動、地域活動などを通じ、地域社会の発展に貢献できる人材の育成に努める。

(5) 大学資産による地域貢献

大学施設、図書館等を地域住民に開放し、開かれた大学として地域貢献を推進する。

(6) 組織等の構築

社会連携・社会貢献活動を効果的に展開するために、必要な事務組織及び委員会組織等を整備し、情報を集約・管理・発信するシステムを構築する。また、自己点検・評価等を踏まえ、恒常的に運営の改善・向上に努める。

## 7 大学の管理・運営に関する基本方針

本学は、大学の目的の実現に向け、社会環境の変化に対応した適切な運営管理に取り組みとともに、本学の持続的発展のため、安定的な財政基盤のもと、健全な運営に努める。

### (1) ガバナンス体制の充実

適切かつ迅速な意思決定により、社会環境の変化に的確に対応しうるガバナンス体制の充実に努め、学長のリーダーシップのもと、戦略的に大学のマネジメントを行う。

### (2) 中期目標の達成

中期計画や年度計画等に基づき、効率的・効果的かつ着実に大学運営を行い、中期目標の達成に努める。

### (3) 組織連携・教職協働の推進

教育、研究及び社会貢献・地域連携等、本学が果たすべき使命を全ての教職員が認識し、学部や研究科、学内組織間の連携及び教職協働により、円滑な大学運営を行う。

### (4) 法令等の遵守

業務の執行にあたり、法令等の遵守により、透明かつ適切な管理運営を行う。

### (5) 効率的な大学運営

費用対効果も意識して、大学の管理運利の効率化を推進する。

### (6) 職員の確保・育成

大学運営に関する専門性を有した職員の確保に努め、SD活動や適正な業績評価等の多様な取り組みにより、職員の大学運営に必要な資質・能力・意欲の向上を図る。

### (7) 人権意識の向上

ハラスメント等の防止や適切な教育研究環境・職場環境の維持のため、人権意識の向上を図る。

### (8) 授業料等以外の自主財源の拡充

外部研究資金や寄附金などの自主財源の拡充に積極的に取り組みとともに、計画的・効果的な予算執行を行う。